

2. 火山の概況 (平成 15 年 5 月 8 日 ~ 平成 15 年 5 月 14 日)

浅間山では微動があった。三宅島では噴煙活動が継続した。諏訪之瀬島では噴火があった。(5月13日に開催された第95回火山噴火予知連絡会による全国の火山活動概況及び三宅島の火山活動に関する統一見解については、添付の参考資料を参照されたい。)

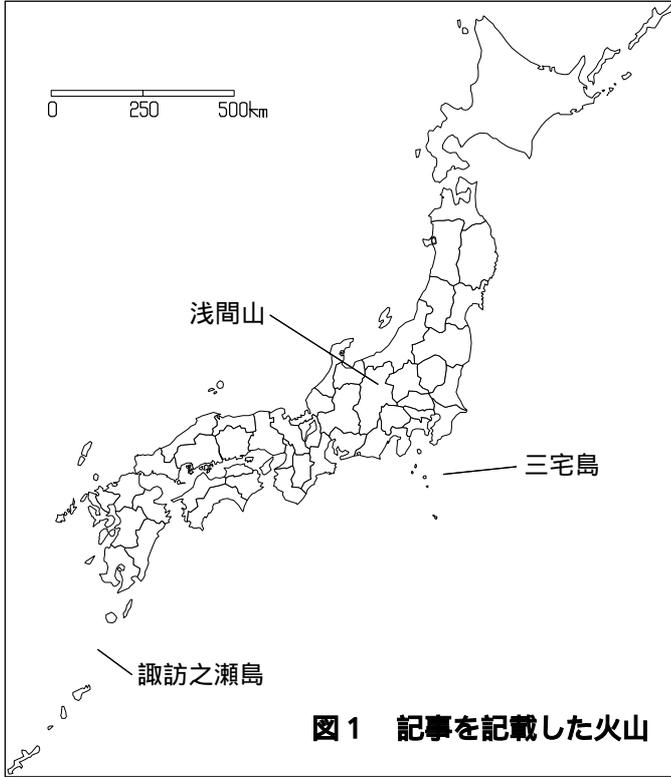


図1 記事を記載した火山

表1 最近1か月に記事を記載した火山

号	対象期間	雌阿寒岳	十勝岳	浅間山	三宅島	八丈島	阿蘇山	桜島	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島
20	5/ 8- 5/14										
19	5/ 1- 5/ 7										
18	4/24- 4/30										
17	4/17- 4/23										
16	4/10- 4/16										

注1 記号の意味
 : 噴火した火山
 : 観測データ等に变化があった火山
 : 前期間までに掲載した火山の、その後の状況等

注2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、变化があった観測データ項目を示す。

浅間山 [微動]

振幅の小さい微動が、14日に1回発生した。この微動は、2月6日以降のごく小規模な噴火に伴い発生した微動に類似していたが、それらに比べて振幅が半分以下のより規模の小さいものであった。噴煙の状況は雲のため不明であった。この微動に関して、その他の観測データには異常な変化はみられなかった。

白色噴煙の放出は継続しており、最高は火口縁上500m(10日)であった。

地震回数は、1日当たり12~28回で、これまでと比べ特段の変化はみられなかった。

群馬県林務部設置の高感度カメラ及び赤外カメラによる火口内の観測では、火口底が明るくなる現象が今期間も引き続き観測された。

GPS及び傾斜計による地殻変動観測では、特に異常な変化は観測されなかった。

三宅島 [噴煙・地震]

監視カメラによる観測では、白色噴煙は連続的に噴出しており、高さの最高は火口縁上500m(10、13日)であった(前期間1,000m)。

8日から9日午前にかけて、やや低周波の地震が一時的に増加し、8日に50回、9日に34回であったが、噴煙の状況等その他の観測データに変化はなかった。またそれ以外の日は、地震活動は平穏な状態であった。期間中、規模の大きな低周波地震は発生しなかった。

GPSによる地殻変動観測では、三宅島の収縮を示していた地殻変動は収まっている。

諏訪之瀬島 [噴煙・降灰・鳴動・微動]

今期間は爆発はなかった(前期間1回)。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、8日夕方に火山灰を含む噴煙が上がり、9日夜に島内の集

落（御岳の南南西約 4 km）で少量の降灰があった。また、9～10日に時々鳴動が聞こえた。
 期間中、継続時間の長い微動がたびたび発生しており、火山活動はやや活発な状態となっている。

表 2 火山情報発表状況

火山名	火山情報名	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第 251 号 （1日2回発表）	8日 09:30	活動経過ほか（噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想） 第 263 号は第 95 回火山噴火予知連絡会統一見解（内容については添付の参考資料を参照）
	火山観測情報第 262 号	13日 16:30	
	火山観測情報第 263 号	13日 17:30	
	火山観測情報第 264 号	14日 09:30	
	火山観測情報第 265 号	14日 16:30	

参考

平成 15 年 5 月 13 日、第 95 回火山噴火予知連絡会が開催され、同連絡会は、最近の全国の火山活動について委員及び関係機関からの報告をもとに取りまとめ、終了後、気象庁から以下のとおり発表した。

平成 15 年 5 月 13 日
気 象 庁

第 95 回火山噴火予知連絡会 全国の火山活動について

2003 年 1 月以降、噴火した火山は、浅間山、桜島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島の 4 火山でした。

三宅島では、依然として山頂火口から二酸化硫黄を含む火山ガスが放出されています。別紙のとおり統一見解を発表しました。

浅間山では、噴煙活動がやや活発な状態が続いており、本年 2 月から 4 月中旬まで、時折ごく小規模な噴火が発生しました。阿蘇山では、熱的活動はやや活発な状態で推移しています。

これらの火山では、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

全国の火山活動状況は以下のとおりです。

1. 北海道地方

1) 雌阿寒岳

- ・ 4 月 13～23 日に地震がやや増加しました。
- ・ 2000 年以降ポンマチネシリ 96-1 火口温度はやや低下し、噴煙活動もやや弱い状態が続いています。

2) 十勝岳

- ・ 62-2 火口では活発な噴煙活動が続いています。
- ・ 2 月 8 日継続時間 37 分の火山性微動が発生しましたが、火山灰の噴出等はありませんでした。微動はその後 2 回発生しましたが、顕著な地震増加はありませんでした。

3) 樽前山

- ・ この期間顕著な地震増加は見られませんでした。A 火口などでは高温状態が続いています。

4) 有珠山

- ・ 2000 年噴火の余効的变化が続いています。火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

5) 北海道駒ヶ岳

- ・ 2 月 25～26 日に微小地震が一時的にやや増加しましたが、火山性微動は観測されませんでした。
- ・ 昭和 4 年火口の噴煙活動は穏やかで、全体に熱活動が低下した状態にあります。
- ・ G P S 観測では、引き続きわずかな山体膨張傾向が見られています。

6) 摩周

- ・ 2 月 12～13 日に摩周カルデラ内の浅部を震源とする地震活動（最大地震 M3.8）が一時的に活発化しました。

2. 東北地方

1) 岩手山

- ・ 火山活動は比較的穏やかに経過しました。
- ・ 東岩手山のやや深い（深さ 10km 付近）ところを震源とする火山性微動、低周波地震は引き続き発生しています。
- ・ 黒倉山山頂の噴気の高さは 2 月に一時 300m を観測するなど、黒倉山付近の噴気活動は依然として続いています。
- ・ 黒倉山周辺の局地的な地殻変動は続いています。

2) 吾妻山

- ・ 火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

3) 安達太良山

- ・ 2003 年 1 月～2 月に、深さ 17～20km の下部地殻に火山性微動が発生しました。

4) 磐梯山

- ・ 時折、小規模な火山性微動を観測していますが、火山活動に大きな変化はなく、静穏に経過しました。

3. 関東・中部地方

1) 那須岳

- ・ 火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

2) 草津白根山

- ・ 地震活動に特別な変化はありませんでしたが、火山ガスの温度や化学組成などに若干の変化が見られました。

3) 浅間山

- ・ 2000 年 9 月から火山活動はやや活発な状態が続いています。
- ・ 地震活動は、1 日あたりの地震回数は 10～50 回程度で推移しました。
- ・ 噴煙活動はやや活発な状態が続いています。昨年 6 月から観測されている火口底温度の高い状態は依然続いています。火映現象は観測されませんでした。
- ・ 二酸化硫黄の放出量は、多い状態が続いています。
- ・ 2002 年夏以降、GPS 観測では、わずかな山体膨張傾向が見られます。
- ・ 2 月 6 日、3 月 30 日、4 月 7 日、4 月 18 日にごく小規模な噴火が発生しました。

火山活動がやや活発な状態が続いており、今後も火口周辺に影響を及ぼすごく小規模な噴火の発生する可能性があります。

4) 御嶽山

- ・ 火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

5) 富士山

- ・ 高周波地震、低周波地震ともに少なく、静穏な状態が続きました。

6) 伊豆東部火山群

- ・ 火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

7) 伊豆大島

- ・ 火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

8) 三宅島

- ・ 別紙のとおり統一見解を発表しました。

9) 八丈島

- ・ 超低周波地震（卓越周期 7～11 秒）を含む地震が時々発生した他は、静穏な状態が続きました。

4.九州地方

1) 九重山

- ・ 火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

2) 阿蘇山

- ・ 中岳第一火口の熱活動は、やや活発な状態で推移しています。
- ・ 中岳第一火口は、全面湯だまり状態が続いており、南側火口壁下の赤熱現象も引き続き観測され、4月にはこれまで最高の501を観測しました。
- ・ 孤立型微動の日回数は、1月には400回以上と多い状態から次第に減少し、3月中旬以降は50回以下でした。
- ・ 火山性地震は少ない状態で推移し、噴煙活動に大きな変化はありませんでした。

3) 雲仙岳

- ・ 火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

4) 霧島山

- ・ 御鉢付近の火山性地震は一時的に増加しましたが、その他は少ない状態で推移しました。
- ・ 火山性微動は9回観測し、継続時間が10分間を超えたのは3月25日の1回でした。
- ・ 新燃岳付近を震源とする火山性地震は総じて少なく、微動も少ない状態で推移しました。
- ・ 新燃岳及び御鉢火口の噴気地帯に変化はありませんでした。

5) 桜島

- ・ 桜島南岳は今期間も山頂噴火を繰り返しましたが、桜島の活動としては比較的静穏な状態が続きました。
- ・ 期間中の噴火回数は9回、うち爆発回数は6回でした。

6) 薩摩硫黄島

- ・ 2月16日から19日に連続した火山性微動を観測し、17日にごく微量の降灰を確認しました。また、4月13日には山頂から乳白色の噴煙を観測しました。
- ・ 他の期間は地震活動、噴煙活動ともに大きな変化はなく、定常的な活動が続いています。

7) 口永良部島

- ・ 火口直下の地震活動の高まり、火口の地温上昇・噴気の活発化が認められます。
- ・ 火山性地震は2月から増加しており期間中388回観測しました。
- ・ 振幅の小さな火山性微動は、期間中19回観測しました。
- ・ 火口直下での熱による消磁傾向が2月以降やや加速しています。
- ・ 新岳火口底に新たな噴気活動を確認しました。

8) 諏訪之瀬島

- ・ 2000年12月から火山活動が活発な状態が続いています。
- ・ 噴火活動は活発で、爆発的噴火を期間中30回観測しました。また、連続的噴火も3回観測し、最も継続時間の長かったのは2003年3月7日の610分でした。
- ・ 十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、体に感じる空振や爆発音、鳴動もあり、集落にも時折降灰がありました。

5.海底火山

福岡ノ場で変色水域が確認されましたが、特に大きな変化はありませんでした。

平成15年5月13日
気 象 庁

三宅島の火山活動に関する火山噴火予知連絡会統一見解

三宅島の火山活動は、全体としてゆっくりと低下してきていますが、最近半年程度は低下の割合が緩慢になっています。今後の火山活動の推移を見極めるためには、引き続き観測データの推移を見守る必要がありますが、火山ガスの放出は当面続くと考えられます。

三宅島の山頂火口からの火山ガスの放出量は長期的には減少してきています。そのうち、二酸化硫黄についても、放出量はゆっくりと減少し、最近数ヶ月では、1日あたり3千～1万トン程度と概ね横ばい傾向となっています。

火山ガスの組成に顕著な変化は依然認められず、マグマ中のガス成分濃度や脱ガスの条件などに大きな変化はないと考えられます。

火山灰の放出を伴う小規模な噴火は2002（平成14）年11月24日以来観測されていません。

全磁力観測では、2002（平成14）年7月頃から山頂火口直下の温度低下を示唆する帯磁傾向が観測されていますが、2003（平成15）年に入ってからその傾向は鈍化しています。

火山性地震の活動に大きな変化はありませんが、連続的に発生している火山性微動の振幅は小さくなっています。

活動の開始以来観測されてきた三宅島の収縮を示す地殻変動は、収まっています。

三宅島では、現在でも局所的に高い二酸化硫黄濃度が観測されることもありますので、風下に当たる地区では引き続き火山ガスに対する警戒が必要です。また、雨による泥流にも引き続き注意が必要です。